



## 富山県における犯罪情勢と 犯罪抑止に向けた取組み

富山県警察本部  
生活安全部首席参事官 警視 七澤 浩文



### 1 はじめに

富山県警察では、平成30年の警察運営の基本に「日本一安全で安心して暮らせるとやまの実現をめざして～県民のために、県民とともに～」を掲げ、地域住民や関係機関・団体、自治体等と連携協働しながら、犯罪の起きにくいまちづくりに向けた取組みを推進しています。

### 2 富山県の概要

富山県は、面積が約4,200km<sup>2</sup>、人口が約105万人と小規模県ではありますが、3,000m級の山々が連なる立山連峰から水深1,000mを超える富山湾に至るまで、高低差4,000mのダイナミックで変化に富んだ、美しく豊かな自然環境に恵まれており、平成27年に北陸新幹線が開業してからは、関東圏を中心に多くの観光客、ビジネス客が富山県を訪れています。

交通体系としては、東西南北に走る鉄道、高速自動車道のほか、日本で唯一河川敷に作られた富山空港があり、富山湾には中国、ロシアなど環日本海圏の交易拠点として重要な役割を担っている富山新港があります。



立山連峰と富山市



立山連峰と県花チューリップ



北陸新幹線

### 3 富山県における犯罪情勢

富山県における刑法犯認知件数は、平成13年に戦後最多件数となって以降、平成29年まで16年連続で減少し、平成29年は5,330件と戦後最少値を更新しました。

特殊詐欺については、平成26年に122件、約5億3,700万円の被害が発生して以降、昨年まで3年連続で被害額は減少し、平成29年は約1億9,400万円となり、阻止率は71.7%で全国トップクラスとなりました。

しかしながら、車上ねらいや自転車盗といった県民の身近で発生する犯罪や、強制わいせつなどの重要犯罪が増加したほか、子供や女性を狙った声かけなど前兆事案が増加するなど、「日本一安全で安心して暮らせるとやまの実現」には課題が残っています。

### 4 犯罪抑止に向けた取組み

#### (1)「富山県民だまされんちゃ官民合同会議」の開催

特殊詐欺に対する社会全体の「抵抗力」を高めるため、高齢者と身近に接する機関・団体・事業者等による被害防止(だまされないため)に向けた取組みを促進するため、平成26年に「富山県民だまされんちゃ官民合同会議」を設立し、県・市町村のほか金融機関、配送事業者、タクシー協会、デイサービスセンター、ホームヘルパー協議

会、理・美容組合等、幅広い業界団体が参加しています。

これまで、県知事出席のもとで特殊詐欺対策の共同宣言を採択し、各参加団体が被害防止アクションプランをそれぞれ策定して実践しているほか、各団体の主体的な取組みを促進するため、県警察からは最新の被害実態や犯罪手口・予防対策に関する情報提供(平成26年10月から「だまされんちゃ通信」を毎月配信)、講習会の開催、声かけ事案対応訓練等を推進しています。

更に、特殊詐欺に対する県民の関心を高めるため、昨年、タレントの高原兄氏を被害防止イメージキャラクター「だまされんちゃ県民応援団長」に任命し、商業施設等に同氏の等身大防犯パネルを設置、テレビ・ラジオ番組を活用した情報発信、電車・駅広告を展開するとともに、高原氏の作詞作曲で被害防止ソング「だまされんちゃ!」を作成、スイング調の軽快なサウンドに乗せて特殊詐欺の手口や対処方法の広報周知に努めています。



だまされんちゃ県民応援団長

## (2) 金融機関等との連携による水際対策の強化

昨年における富山県の特殊詐欺被害阻止率は全国トップクラス(71.7%で全国2位)であり、これを維持継続するため、引き続き金融機関に対しては、窓口で高額の引出しや振込み、定期預貯金の解約を求める高齢者への窓口アンケートを活用した声かけと警察への通報、コンビニエンスストアに対しては、高額の電子マネーを購入しようとする客や収納代行を利用しようとする客への声かけと警察への通報が確実に行われるよう働きかけています。また、実際に被害を未然に防止した店舗・事業所及び従業員を「被害防止推進店」「被害防止推進員」に認定する「特殊詐欺被害防止推進店等認定制度」を運用しており、これまで100店舗、100人以上の従業員を認定して、被害防止気運の一層の広がり、浸透を図っています。

## (3) 「だまされんちゃコールセンター」の開設

警察が犯罪捜査の過程で犯人側から押収した名簿に登載されている者は、特殊詐欺の被害に遭う可能性が高いことから、民間事業者に業務委託して「だまされんちゃコールセンター」を開設し、センターのオペレーターが名簿に登載されている者に電話をかけ、名簿に名前が載っている事実を伝えての注意喚起、個別具体的な防犯指導、詐欺の電話を受けた際の情報提供依頼を実施するとともに、警察本部からは注意喚起レターを郵送しています。



コンビニエンスストアでの声かけ



だまされんちゃコールセンター

## (4) 特殊詐欺被害ゼロ地区運動

特殊詐欺被害の撲滅に向け、住民が主体となった被害防止活動の活性化を図るため、今年から新たに「特

殊詐欺被害ゼロ地区運動」を実施することとしています。この運動は、富山県内の各市町村に設置された地区安全なまちづくり推進センターから参加を募り、参加地区に対してのぼり旗、啓発チラシやシール等の活動支援品を提供するなどして地域に根ざした活動を支援するもので、8月から12月までの運動期間中に、参加住民が被害ゼロ署名簿リレーや運動シールの掲示等を実践することで、地域の絆や連帯感を醸成し、特殊詐欺に対する地域全体の抵抗力の強化を図ることとしています。

#### (5) 地域防犯設備効果体感事業

防犯カメラに対して関心を示す町内会は少なくないものの、設備費用等の経済的事情、設置の効果に対する理解が浸透していないなどの理由により防犯カメラの設置が普及していないことから、こうした町内会による設置を後押しするため、一定期間防犯カメラを貸し出して、犯罪抑止効果の体感、防犯カメラの管理運用ノウハウの教示、自治体による助成制度の利用推奨等を実施・促進する「地域防犯設備効果体感事業」を、平成30年10月から新たに実施することとしております。

既に多くの町内会等から申し込み・問合せを受けており、この新規事業により町内会による防犯カメラの自主的な設置促進を図ることとしております。

#### (6) カギかけ防犯コンテスト

富山県における自転車盗の無施錠被害率は全国平均よりも高く、被害者の内訳では中学・高校の生徒が占める割合が高い傾向にあることから、このような若い世代のカギかけの習慣付けにより盗難被害を減少させることを目的として「カギかけ防犯コンテスト」を実施しています。

このコンテストは、県内の中学・高校から参加を募り、参加校の駐輪場における自転車の施錠状況を調査して、施錠率が優良な学校を優秀校として表彰するものです。

また、カギかけの促進に関する県知事メッセージを県内の15市町村に伝達するとともに、カギかけ広報活動を展開する「カギかけキャラバン」も実施しており、巨大なカギをシンボル化したキャラバンキーを県下全15警察署がリレーしながら、カギかけの徹底による無施錠被害防止を呼びかけるキャンペーンを県内全域で展開しています。



カギかけキャンペーン開始式

#### (7) 富山県防犯設備協会との連携

富山県防犯設備協会は平成20年に発足して以降、県内各地区において防犯連絡所、民間パトロール隊、金融機関等を対象とした研修会のほか、防犯設備の展示や防犯診断、県警察職員を対象とした防犯設備等に関する講習など、防犯機関・団体及び県警察の活動に積極的に協力していただいております。県警察としましては、今後も富山県防犯設備協会と緊密に連携しながら、「日本一安全で安心して暮らせるとやまの実現」を目指していきたいと考えておりますので、御支援、御協力をお願いします。

### 5 結びに

本年5月末現在における当県の刑法犯認知件数は、16年連続減少を達成した昨年同期に比べ減少しておりますが、17年連続減少の達成に向け、地域住民、関係機関・団体等の皆様と、一層の連携を図りながら全力で取り組んでいきたいと考えています。